

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.647

★いよいよ「読書週間」! (2頁)

★第51回野間読書推進賞 受賞者決定 (3頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

●「読書週間」によせて

本や図書館との出会いのきっかけに — 福井県立図書館 覚え違いタイトル集 —

福井県立図書館 司書

みやがわ ようこ
宮川陽子

福井県立図書館(以下、当館)は10月20日、書籍『100万回死んだね 覚え違いタイトル集』を講談社から発行します。この本は当館の公式サイト内で2007年から公開している「覚え違いタイトル集」(<http://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/tosyo/category/shiraberu/368.html>)をもとにしています。「覚え違いタイトル集」は本を探している利用者から聞いた、語句が違っていたり、うる覚えの情報だったりするタイトルなどを「覚え違い?」、本来求めている本の情報を「こうかも!」として表形式で掲載しているページです。

当館では覚え違いの情報から、つぎの方法で本来の本を探しています。ひとつは、図書館の蔵書検索のキーワードを工夫する方法です。蔵書検索では、キーワードに一文でも違う文字が混じっていると、本が見つけれません。日本語は漢字、仮名、数字、アルファベットなど、さまざまな文字・記号で表記できます。また、類義語が豊富にあり、語順や助詞が異なっても意味に大きな違いは生まれないうという性質もあります。こうしたことを想定して、書名はすべて仮名で、助詞を抜くといった工夫をするほか、類義語を推理して検索し、本来の本を見つけています。

もうひとつは、利用者から求めている本の情報をたくさん聞き出す方法です。以前読んだが題名や著者名は忘れてしまった本を探す場合には、主人公の名前や物語の舞台の地名、印象に残るシーンなどを思い出してもらいます。図書館には登場人物の名前から作品名が検索できる事典があります。また、国立情報学研究所のWebcat Plus(<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)には、文章から検索できる連想検索という機能があり、利用者から聞いたあらすじなどの情報で検索し、本に行き着くこともあります。サイト版「覚え違いタイトル集」には調査過程を掲載していないため、たちどころに司書が本を見つけ出しているかのような誤解を受けることがあります。そこで今回の書籍には、できるだけ調査過程を記しました。覚え違いのタイトルから本

来の本を探し出すように、図書館が利用者の質問を受け、図書館の資料や情報を駆使して回答するサービス「レファレンスサービス」といいます。「覚え違いタイトル集」は、このサービスの記録集です。このサービスを公開した狙いはふたつあり、ひとつは、探している本にこのリストで出会ってもらうこと、もうひとつは、公式サイト内におもしろいコンテンツを置いてレファレンスの知名度を上げ、気軽になんでも相談していいんだ、と知ってもらうことでした。「覚え違いタイトル集」は、ダジャレのようなおもしろさゆえに、公開開始から十数年経った現在も事例を追加するたび、Twitterなどで話題になります。司書の調査能力がすごい、といった感想が載ることもあり、レファレンスサービスの広報の有力な手段に育ちました。

今回の書籍をふだんネットに親しみの薄い方々にも手に取ってもらい、図書館を知る機会の拡大につながれば、と考えています。



最後の頁を閉じた
違う私がいた

2021 第75回
読書週間
10.27(水)―11.9(火) [14日間]

10月27日は文字・活字文化の日

主催＝公益社団法人 読書推進運動協議会

主要構成7団体＝一般社団法人 日本書籍出版協会、
一般社団法人 日本雑誌協会、一般社団法人 教科書協会、
一般社団法人 日本出版販売協会、日本書店商業組合連合会、
公益社団法人 日本図書館協会、公益社団法人 全国学校図書館協議会

後援＝文部科学省



さわやかな青空の下で 本と「違う私」を探す旅を！

10月27日(火)より、「読書週間」がはじまります。今年の標語は「最後の頁を閉じた 違う私がいた」。

貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局までご連絡ください。

「読書週間」ではめずらしく、抜けるような青空が印象的なポスター。ご覧になった方からは、「さわやか!」「図書室が明るくなりました」などの感想をいただいています。「図書館だより」などへのポスター画像の掲載は、加工縦横比率の変更、色の置き換え、画像の切り抜きなど、せずにそのままの形でしたら、問題ありません。

ホームページ「素材集」のポツプツやしおり、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。ポスターのJPEGデータもこちらにあります。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版販売協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申しつけください。

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！

また、過去のポスターデータの本と「違う私」を探す旅を！



今年の「読書週間」ブックカバー
秋らしく鱗雲を入れました

は「読書が楽しくなるブックカバー」、どんなカバーが楽しみです(どちらも、参加書店のみ)。

全国の公共図書館、図書室で開催されました行事について、「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覧」を発行します。

すべての地域において緊急事態宣言が解除されましたが、行事の実施にはまだまだ緊張感をともないます。読書推進現場のみならず、あらためて感謝申し上げます。

2021年度・第51回

『野間読書推進賞』決定

9月13日(月)、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第51回 野間読書推進賞 選考委員会』において、2021年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

(敬称略)

《団体の部》

- ・木刈親子読書会 (千葉県印西市)
- ・石垣市文庫連絡協議会 (沖縄県石垣市)

《個人の部》

- ・吉井久子 (佐賀県神埼市)
- ・鳥羽啓子 (鹿児島県鹿児島市)

《奨励賞》

- ・草津点字グループあゆみ会 (滋賀県草津市)

今年度の野間読書推進賞は、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部27(前年24団体)、個人の部2(前年0人)。

本年は新型コロナウイルス感染症対策のため、野間読書推進賞事業委員会による第一次選考会、および選考委員会をオンライン形式で開催しました。第一次選考会では

事前に委員に資料を送付し、各候補者への評価とその理由をご回答いただき事務局で集計。オンライン会議当日に集計結果と各委員の選評を検討し、選考会に向けて16団体2個人を選出し、選考委員会に提出しました。

選考委員会は9月13日(月)に、第一次選考会と同じ形式で開催され、前記の受賞者が決定しました。団体の部受賞の木刈親子読書会は、千葉ニュータウンの誕生の

1984年、図書館も地縁もない地域ではじまった親子読書会。県立中央図書館、町教育委員会との折衝で、図書や会場などを確保してのスタートでした。年齢・学年別の5つのクラスで月1回の例会を開き、科学遊びや戦争と平和を考える機会を積極的に取り入れています。毎月の定例会や広報紙で情報を共有し、子どもたちだけでなく大人にとっても豊かな場となつています。近年はSNSを活用し、会員以外の参加者にもアピールしています。

石垣市文庫連絡協議会は、市内の9つの文庫が集まつて1984年発足。1985年より児童文化講演会を開催して以来、各種講演会の実施、絵本の読み聞かせやお



話などの親子宿泊の集い「文庫まつり」など、さまざまなイベントを実施し、地元の昔話継承や自然体験にも力を入れています。また、市内にとどまらず、近隣の竹富町・与那国町などへも出張活動を行っています。

個人の部受賞の吉井久子さんは、孫に絵本を読みはじめた1994年度から読書活動を開始。神埼市内で活躍する実演グループ「おはなしかいケムケム」「ゆめどん」「うちどく姉」だけでなく、「佐賀県親と子の読書会協議会」の副代表を務めるなど、佐賀県の読書活動にも貢献しています。「うちどく姉」では、地域在住のベトナム人技能実習生との国際交流を進め、近年では一緒に七夕飾りを作ったり、日本の紙芝居の実演も行っています。

鳥羽啓子さんは、学生時代に椋鳩十さんに師事し、「子どもが生まれたら、子どもに本を読んでもくれたまえ、おはなしを聞かせてくれたまえ」の教えから、子どもの誕生とともに読み聞かせ・おはなしを実践。その後、小学校親子読書会や子育てグループと地域文庫設置、ストーリーテリングとわらべうたの自主サークル入会と実践・学び、ともに力を入れてきま

した。鳥羽さんを講師とする研修会では、「鳥羽さんに学びたい」と参加する人も多くいます。

奨励賞の草津点字グループあゆみ会は、1980年発足。「ひとりでも点訳物が必要な方のために」を活動方針としています。点訳活動はおおよそ月4回・市広報紙・市社協広報紙の点訳と利用者への発送が活動の中心ですが、市立図書館蔵書や選挙関係・福祉関係の書類の点訳なども行っています。選挙の開票作業では点字投票の判読もしています。また、市内小中学校や地域の点字体験教室でも指導するなど、啓発活動も行っています。

今年度も、全国よりすばらしい候補者の推薦がよせられました。惜しくも受賞とはならなかった候補者には、食育教育との連携や、コンピュータを使い地域の民話・伝説を継承する取り組み、災害時の子ども心のケアへの取り組みなど、「あと数年後の様子が知りたい」ものが多いありました。贈呈式は11月5日(金)、午前11時より、東京都千代田区神田神保町の出版クラブビルで開催します。本年も新型コロナウイルス感染症対策として規模を昨年なみに縮小し、贈呈式のみで開催となります。

■家の光協会 読書ボランティア講座

初心者、経験者それぞれに向けた
実践講座をオンラインで

一般社団法人家の光協会は、「第18回 家の光 読書ボランティアア養成講座」「第15回 家の光 読書ボランティアスキルアップ講座」をYouTubeで配信する。

参加費は無料だが事前の視聴申込が必要。定員は各100名。講座プログラムは以下のとおり(敬称略)。

『養成講座』初心者対象

・講演「読み聞かせと絵本の選び方と楽しみ方」講師＝安富ゆかり(JPIC読書アドバイザー)

・講演「食と農をテーマにブックトークをしてみよう」講師＝正岡慧子(児童文学作家)



おはなし会の開き方、プログラム例を紹介する冊子を全員にプレゼント



講座のQRコード
【上】養成講座
【下】スキルアップ講座



・実践報告「世田谷親子読書会の活動紹介」講師＝鈴木万由子(世田谷親子読書会代表)

配信期間＝12月2日(木)～16日(木)

申込締切＝11月25日(木)

『スキルアップ講座』経験者対象

・講演「紙芝居のチカラと不思議」絵本の読みきかせとの違い」講師＝長野ヒデ子(絵本作家・紙芝居作家・紙芝居文化推進協議会会長)

・講演「オンライン絵本会について」講師＝竹内美紀(オンライン絵本会にじのひろば代表)

・実践報告「JA秋田ふるさとふるさと民話の紹介」講師＝中川文子(秋田弁の昔語り語り部)

配信期間＝12月10日(金)～24日(金)

申込締切＝12月2日(木)

配信期間中は何度でも視聴可能。参加者には冊子『あなたにできる 読書ボランティア入門』がプレゼントされる。

■第54回 造本装幀コンクール 展示

紙の本の多彩さ、楽しさを
一堂に

出版クラブビル(東京都千代田区)内の、クラブライブラリーでは、「第54回 造本装幀コンクール」受賞作品を中心とした展示「小さな本の展覧会9『造本・装幀の力』」を11月30日(火)まで開催している。

会場には、今回の各賞受賞作24点に加え、今回の全応募作品約460点があり、デザイン・印刷方法・素材など、紙の本ならではの多彩な出版物の魅力が楽しめる。展示

図書はすべて、手に取ることができ、ほか、審査員による受賞事由など詳細を記した「第54回 造本装幀コンクール 公式パンフレット」も購入できる。

現在、造本装幀コンクール事務局では、受賞にはいたらなかったが話題になった作品12点を対象に公式SNSで「あなたが素敵だと思っ一冊」を「読者賞」として投票を受け付けている。こちらのノ



「読者賞」ノミネート作品

■「赤ちゃんへの絵本贈呈事業」に関する全国調査

複数部署の連携が
赤ちゃんへ絵本を届ける

NPOブックスタートは、日本におけるブックスタートの開始から20周年を迎えたのを機に、自治体における「赤ちゃんへの絵本贈呈事業」に関する全国調査を本年3月に実施し、9月24日付けで調査結果を発表した。

調査対象は全国の自治体1741市区町村で、1498市区町村より回答があった。

事業に加え、読み聞かせを伴わない絵本の贈呈のみなどの類似事業も含めて対象とした。その結果、全国の78.6%にあたる1368市区町村が赤ちゃんへの絵本贈呈事業を行っていることがわかった。

また、事業の主管部署は図書館・図書室が約5割、次いで生涯学習課・社会教育課などがその役割を担っている。

●造本装幀コンクール

<https://www.jpba.or.jp/zohon/zohon-index.html>

主管部署は図書館であっても、すべての親子を対象とした集団健診、育児相談などの母子保健事業で絵本が贈呈されており、異なる部署の協力によって事業が進められている様子が明らかとなった。

都道府県別の実施状況も含めた調査結果および分析は、NPOブックスタートサイトにも掲載されている。これからブックスタートをはじめ自治体だけでなく、自治体へブックスタートの実施を働きかけたい個人・団体も参考にすることができる。

●NPOブックスタートサイト
<https://www.bookstart.or.jp/>

■神保町 ブックハウスカフェ

図書館・学校でのワークシヨップの
仕事も紹介する展示・イベント

神保町の子どもの本の専門店
「ブックハウスカフェ」(東京都千代田区)では11月9日(火)まで、「スギヤマカナヨ デビュー30周年記念 原画展&イベント『オドロキモノノキ カナヨの木』」を開催している。

原画展は、「デビュー作」「生きもの・自然・環境」などの5つのテーマ別に、週ごとに内容が入れ替わり、絵本作品の原画に加え、

児童書・一般書などの挿絵、装幀、ワークシヨップの仕事も紹介。

会期中は、ゲストを迎えての対談や座談会、ワークシヨップのイベント「カナヨの部屋」も、ブックハウスカフェ2階で開催。一部のプログラムをのぞき、オンライン同時配信(見逃し配信も予定)も行われる。10月31日(日)には「図書館・学校でのワークシヨップ」「本の紹介ポップのテクニク」



原画展&イベント
チラシ

といった、司書・ボランティア向けのプログラムを予定。会場参加、オンライン参加のどちらも、事前の申し込みと参加費が必要(参加費はプログラムごとに異なる)。展示とイベントの詳細、イベントの申し込み方法などは、ブックハウスカフェ(電話 03-6261-0317)まで。



サイトQRコード

東西の精鋭たちによる
白熱のビブリオバトル、開催！

■ビブリオバトル普及委員会

ビブリオバトル普及委員会は、11月6日(土)・7日(日)の2日間、YouTubeLiveとZoom

ウェビナーを使ったオンライン形式で「Bib-1グランプリ2021」を開催する。

大会では、全国各地のビブリオバトル普及委員会のメンバー20名が東日本選抜と西日本選抜にわかれて、選りすぐりの本を紹介。先鋒・次鋒・中堅・副将・大将の5

回戦を行い、全体の得票率の高かったチームが勝利となる。

また、大会終了後、参加した人々を中心に「全紹介本の中から、発表を聞いて実際に手にとった本」の調査を行い、最多得票の本を「Bib-1大賞(特別賞)」として発表し、表彰する。

大会を視聴し、投票に参加するには、事前の申し込みが必要(無料、先着350名)。投票はしなが



Bib-1 グランプリ
ポスター

視聴したい場合は、申し込み不要。申し込み、および、視聴方法など詳細はビブリオバトル普及委員会まで。

●ビブリオバトル普及委員会
「Bib-1グランプリ」

<https://bib-1grandprix2021.mystrikingly.com/#bib-1-2021>



サイトQRコード

■「図書館総合展」開催

オンラインとリアル、
両方の形で開催へ！

図書館総合展運営委員会は、「図書館総合展2021 ONLINE plus」を11月1日(月)～11月30日(火)の期間、開催する。昨年のオンライン配信・展示による「図書館総合展2020 ONLINE」の開催経験と社会情勢の変化、また、参加者からの要望を受けて、本年はオンラインに加え、各地サテライト会場を設定してのハイブリット形式で行われる。各サテライト会場ではコロナ感染拡大抑止と安全を十分に考慮したうえで、展示や講演会などが予定されている。

同展サイトでは期間中を通じて、参加者からの要望を受けて、本年はオンラインに加え、各地サテライト会場を設定してのハイブリット形式で行われる。各サテライト会場ではコロナ感染拡大抑止と安全を十分に考慮したうえで、展示や講演会などが予定されている。

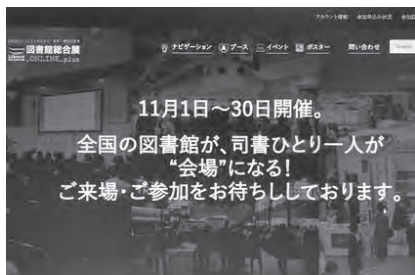
講演会、座談会、実践報告、ヴァーチャル図書館見学会などのイベントが配信される。昨年は多くのライブイベントが集中配信されるコア日が設けられていたが、今回はなく、期間中を通して多彩なイベントに参加できる。

配信スケジュールやイベント内容・参加方法は同展サイトで確認できる。同サイトでは、はじめて図書館界にふれる人に配慮して、テーマ別などのイベントを見たらよいかのナビゲーションが用意されている。

対象は、図書館に関わるすべての人。参加費は無料だが、すべてのコンテンツを視聴するには、「図書館総合展アカウント」への登録が必要となる。登録すれば、各イベントへの参加(視聴)者への参加証明書を発行するサービスもあるので、公務として参加するには有効である。

●図書館総合展2021 ONLINE plus サイト

<https://www.libraryfair.jp/>



図書館総合展 2021 ONLINE plus
サイト

優良読書グループの歩み (10)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

魚津読書会

代表者 海原 優
富山県魚津市

〈推薦〉
富山県読書推進運動協議会

魚津読書会は、1989年「若い」を考える勉強会をきっかけに十数名の女性が集まり、設立されました。当初は基督教会の一室を会場に借りていましたが、1995年から魚津市立図書館に移り、現在にいたっています。いまでは発足時の状況を知る人も少なくなり、三十余年の時の流れを感じます。

現在の会員は7名(60〜80代)です。経歴や境遇はさまざまですが、いずれも本好きの仲間で、毎月第一木曜日午後例会を開いています。テキストは県立図書館から借りていますが、小説を主として、ノンフィクションや随筆などよくに

限定せず、テーマも、歴史、郷土、社会、人生、老いなど、いろいろです。このテキスト選びにはけっこう苦労しますが、おもしろそうな本で感想や意見の多く出そうなものを選んでいきます。とくに、個人ではまず聞くこともなかったであろうすばらしい本や新しい作家に出会えることが、大きな楽しみです。

例会当日は、冒頭で著者のプロフィールや登場人物をおさらいします。それから全員が感想を簡単に発表したあと、自由に意見交換しながら、重要と思われるポイントを掘り上げていきます。その際は、本の内容を自分の生活や経験に引きよせて感想などを本音で語るものが大切でしょう。このため、思ったことを率直に言いあえる雰囲気づくりに努めています。とにかく、おたがいに感想などを話しあうことで新しい知識や視点に気づき、読書の楽しみが倍増します。これまででは、会員の満洲引揚げや60年前の魚津大火の貴重な体験

談などが記憶に残っています。

読書会のこの「一月に一冊の本と一回の例会だけ」のゆるいペースが会員にピッタリあっています。

そして、読書を心のサブリとして普段の生活の中に習慣づけるように心がけています。また、会員の輪を広げることが当面の目標です。そのため、読書会のかた苦しいイメージを壊し、できるだけ敷居を低くして参加しやすい読書会をめざしています。

このたび優良読書グループに選ばれ、当会に対し温かいエールをいただいたものと望外の喜びです。ひとえに永年にわたる先輩諸姉のご尽力と図書館員のみなさま



おたがいの感想・意見の交換が読書の楽しみを大きくする

のご支援の賜物と心より感謝申あげます。

おはなしボランティア「たんぽぽ」

代表者 崎山麻子
兵庫県川西市

〈推薦〉
兵庫県読書推進運動協議会

おはなしボランティア「たんぽぽ」は、川西市中央図書館所属のボランティアとして、2004年に発足しました。現在、おはなしボランティア養成講座を受講したメンバー23名で、図書館と協力して活動しています。

おもな活動は、図書館で毎週土曜日に、乳幼児・幼児・小学生を対象に実施している「おはなしのくに」での読み聞かせや語りです。乳幼児の日は両親の参加も多く、親子のふれあいを楽しみながら、絵本や手遊びに親しめる場となっています。幼児や小学生は、常連の子どもたちもいて、「また来たよ」と楽しみにしてくれていることがうれしいです。

また、「クリスマス会」や「お正月会」、年2回の「おはなしまつり」では、パネル・エプロンシアター、紙芝居、語りの会などを

子どもの心によりそった
実演をこれからも



行っています。内容によっては、講師の先生をお招きしてご指導をいただいたり、手話通訳の方に加わっていただいたりしています。子どもが選んだ本をよりそって読んであげたいね、という思いからじまった「リクエスト読み聞かせ」も、長く続いています。

月1回の定例会では、実施内容の反省、当番の確認、絵本の紹介や実演などを行っています。定例会後に勉強会の時間を設けて、練習を重ねることもあります。おたがいに言いにくいこともあります。が、向上心を持ってスキルを高めあっています。新しいメンバーが増え、助言しながらも初心にかえり、また学び直すという新た



最後の頁を閉じた 違う私がいた

2021 第75回 読書週間
10月27日～11月9日



な気持ちになります。

コロナ禍による半年の休止を経て、9月から月1回広い部屋で人数を制限して「おはなしのくに」を再開しました。帰り際「楽しかったね!」と笑顔で話す親子の姿を見て、開催できたこと、おはなし会を心待ちにしていたくれた親子がいたことを、ほんとうにうれしく思いました。

まだまだ先は見通せませんが、楽しみに来てくださる子どもたちにたくさんのおはなしを届けられるよう、できるかぎりの準備をしていきたいです。

優良読書グループに選んでいただいたことを誇りに思い、これからも私たちは長く楽しく活動していきたいと思います。

野尻町読み聞かせグループ「たんぽぽ」

代表者 西原美茂子

宮崎県小林市

〈推薦〉

宮崎県読書推進運動協議会

1999年、野尻町役場の図書室で読み聞かせ活動をはじめたのは、学校の土曜休日がきっかけです。

子どもたちの居場所づくりと本を楽しむ場の提供を目指してのことでした。4名ではじまった会の名は「たんぽぽ」。大地にしっかりと根をおろし、花を咲かすように、読み聞かせという読書の花を咲かせたいという思いからつけました。読み聞かせグループ「たんぽぽ」の活動はその後、幼児保育園や小中

学校、高齢者施設へと広がり、今年で21年目を迎えます。大地に根を広げた先輩方の活動は、現在3代目の私たち10名が志を引き継いでいます。そして「0歳から百歳までの小林市の教育プラン」のもと、1歳児健康相談での読み聞かせや高齢者施設での昔話語り、ときには歌や音楽を取り入れ、さまざまな方との出会いを楽しんでいます。

なかでも、喜びと幸せを感じたのは、1歳児健康相談時に母親の膝でぐずっていた幼子が絵本に気づくなり、もみじの手を絵本に伸ばしてきてくれたことです。また、小学校で『ふしぎなナイフ』を読んだところ、子どもたちは絵本の中で起こるさまざまな現象にあわせ「ほっぺ」を膨らませたり、手足を動かしたりして表現し、楽し



ともに学ぶ喜びと子どもたちに本を届ける幸せが活動の支え

んでくれたのです。絵本の持つ想像力の世界を感じた瞬間でした。

ともに学び、子どもによりそう読書活動を確かなものにするために設立当初から大切にしてきたのが、毎月の定例会です。スケジュー

視察研修などの計画は仕事や家庭に追われる会員の読書魂に火をつけてくれる時間となっています。

さらに志を高め、引きあげられたのは、宮崎県主催の古事記編纂千三百年記念事業語り部養成講座でした。絵本への目を確かなものにしたのが、小林市小・中学校読み聞かせ連絡協議会主催の「絵本リスト」作成への参加でした。これらは、市立図書館での活動に繋がり、図書館まつりや夜のクリスマス会の実行委員として図書館運営に積極的に協力しています。

活動が広がる一方で私たちも高齢化やメンバー不足に直面しています。だからこそ仲間とともに読む喜びを、子どもに本を届ける幸せを大切に、今後も地域いっしょに「たんぽぽ」の綿毛を飛ばして花を咲かせたいと思います。



2022年



第64回「こどもの読書週間」

第76回「読書週間」

2022年4月23日～5月12日

2022年10月27日～11月9日

標語募集！

2022年第64回「こどもの読書週間」と第76回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、全国学校図書館協議会を通じて全国の学校へ、出版取次各社を通じて全国の書店に送られ掲出されます。

第64回「こどもの読書週間」のポスターは、荒井良二さんのイラストと杉浦康平さんのデザインで製作の予定です。秋の「読書週間」は、4～6月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

●《応募要項》

- ①標語案②どちらも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。③「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭に「ご応募願います」。
- ②応募用紙③官製はがき、A4判ファックス用紙、メール
- ③応募作品数④「こどもの読書週間」「読書週間」ともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。（入選作の版權は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属）

週間」「読書週間」ともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

④締切⑤2021年11月15日(月)必着

⑤賞⑥「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選(1作)図書カード1万円分、標語として採用▼次点(2作)図書カード5千円分▼佳作(20作前後)図書カード2千円分

⑥発表⑦入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付で

⑦送り先⑧〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
公益社団法人
読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語係
または「読書週間」標語係
(どちらへの応募か明示してください)

・FAX 03-5244-5271
・メールアドレス⑨hyogo@dokusyo.or.jp

件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

事務局報告(9月)

- ・2日⑩「たかひこさん、文部科学省と「子ども読書の日」ポスター打ちあわせ
- ☆7日⑪機関紙「読書推進運動」別冊「2021年こどもの読書週間」行事報告⑫の校止を講談社校正部へ依頼
- ☆8日⑬機関紙「読書推進運動」646号入稿
- ☆9日⑭機関紙「読書推進運動」646号
- ☆13日⑮「第51回 野間読書推進賞選考会」を開催(Noom会議)
- ☆14日⑯「第51回 野間読書推進賞」受賞者と推薦人に受賞連絡書面送付
- ☆14日⑰2021「読書週間」ポスター出来
- ☆15日⑱機関紙「読書推進運動」646号出来
- ☆15日⑲第54回「優良読書グループ表彰」推薦締め切り
- ・17日⑳上野の森親子ブックフェスタ運営委員会幹事会に出席
- ☆21日㉑「2021年度 第3回常務理事会」案内を送付
- ☆21日㉒「若い人に贈る読書のすすめ」書目選定事業委員会開催に替えて、各事業委員会にメールでの投票、選考を依頼
- ☆28日㉓文部科学省へ第75回「読書週間」ポスター、趣旨書を送付

●編集部・事務局のひとこと

●先月出来の「読書週間」ポスターは、多くの団体のご協力をいただき、全国の公共図書館・学校図書館・書店などへお届けしております。その一方、「学校図書館司書の研修会で個別に配布したい」「読書週間コーナーを生徒たちと作りたいので、ポスターがもっとほしい」といった学校からの個別のご要望が、この数年、どんどん増えてきています。

●ほとんどがメールでのご依頼です。多くは用件のみ(みなさん、ていねいな文面です)ですが、常連さん(?)になると、今年や去年のポスターの感想、生徒たちの反応、「こんな風に乗っ取りたい」という予定などが来そうに綴られていきます。今年はコロナ禍での学校の様子を紹介してくれた方もいました。

●「グッズ、ダウンロードしました」のご報告も年々増えてきました。2004年よりはじめたグッズデータの作成と提供、「使ってくれる人いるのかな?」と不安なまま、毎年データをアップすること数年、公共図書館・学校図書館関係者との交流会で、「生徒たち、自分が借りた本の表紙を隠したがるので、ブックカバーをプリントして、カウバンクに置いてあるんですよ」とうかがったときは、とてもうれしくなりました。

●先日、私の母校からポスター送付希望がありました。思わずメールを二度見、校名とグッズダウンロードのひとことを確認して、心の中でガッツポーズ。高校時代は図書委員の私、数十年前ぶりに母校の「読書週間」に参加します！ (伸)